

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校児童生徒を対象に実施しています。

(2) 実施時期 平成30年7月～10月

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生

(単位：人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,752	3,788	3,867	3,865	3,897	3,803	22,972	98.7%

中学生

(単位：人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,333	3,477	3,448	10,258	96.4%

※回答率は平成30年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名で回答し、記入後その場で回収

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「自己の行動の見直し」

設問6～設問8 「周囲の児童生徒の意識」

2 調査結果の分析の観点

(1) 過去3年分での推移がつかめるよう、その学年の3年間分の数値を並べてグラフ化

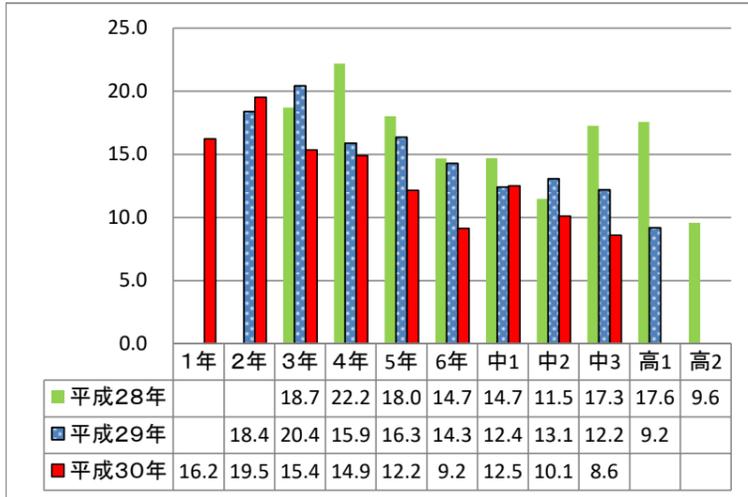
(2) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合の変化

(3) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合の比較

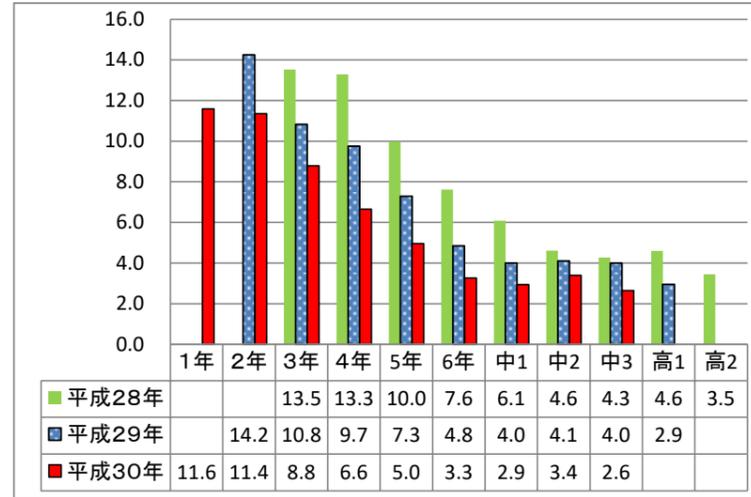
3 調査結果の分析と考察 (単位は全て%)

設問1 あなたは今年の4月から今までの間に、くり返し次のようなことをされたことがありますか。(学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒)

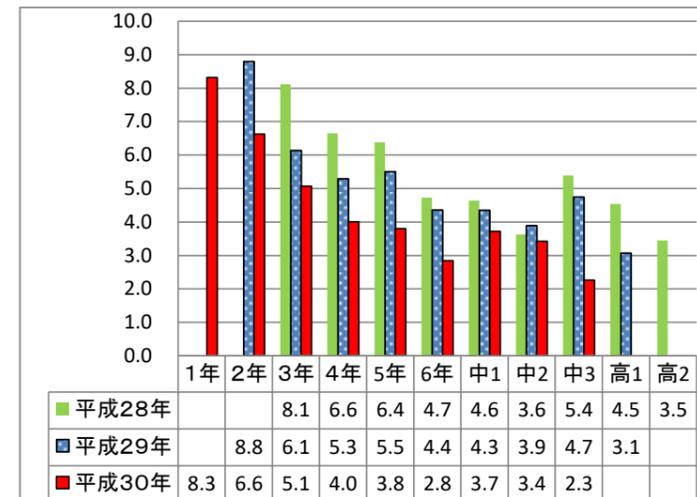
(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われた



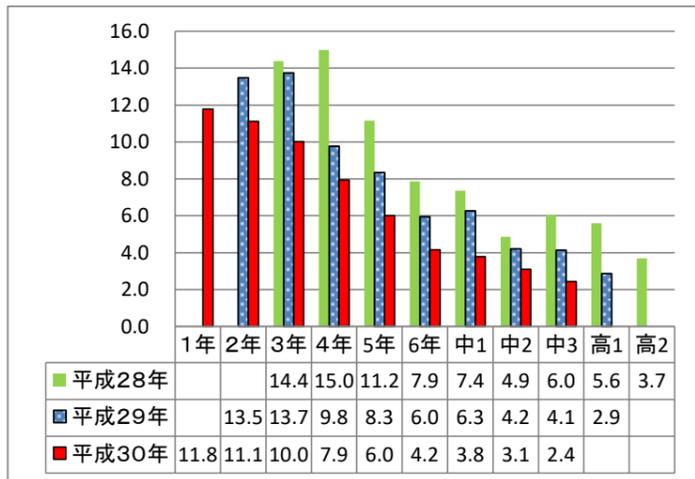
(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりした



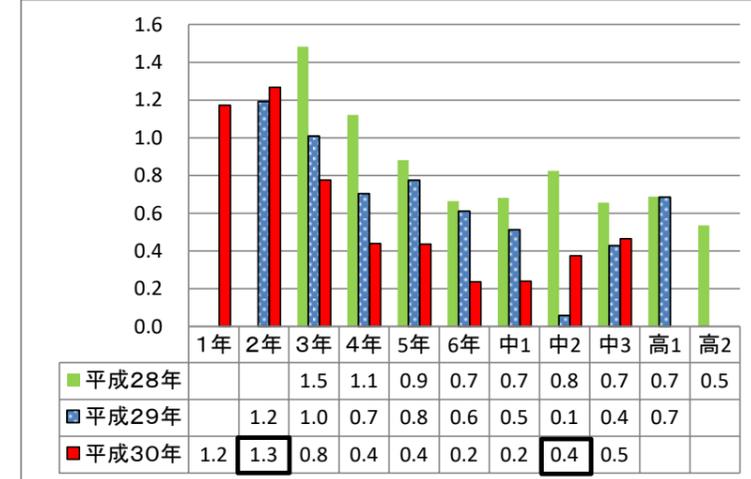
(3) 持ち物を取られたりかくされたりした



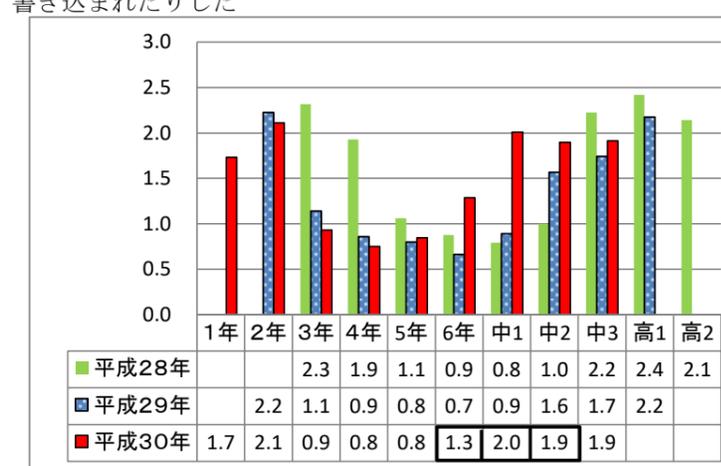
(4) なぐられたり、けられたりした



(5) お金を出させられたり、おごらせられたりした



(6) 悪口の書いてある手紙を教室で回された(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりした



(7) その他

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・黒板に悪口を書かれる・文句を言われた・つねられた・悪口を言われた・話そうとしたら逃げられた・「死ね」と言われる・にらまれた・命令された・勝手に消しゴムを取られた・嘘をつかれた・陰口を言われた・ボールをぶつけられた・授業中邪魔される・恥ずかしいことを大声で言われた

【中学校】

・陰口を言われる・菌扱いされた・LINEでからかわれる・きもいと言われる・死ねと言われた・物を投げられる・変なあだ名で呼ばれる・顔をばらまかれた・自分の方を見て笑ってくる・見た目について言われる・いじられる・動画を拡散された・SNSに勝手に写真を載せられた

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・嫌なことをされる・あだ名をつけられる・体をさわられる・うそをつかれる・あやまってくれない・注意をきかない・物をとられる・うわさを流される・置いて行かれる・悪口を書かれる・こそこそ話をされる

【中学校】

・陰口を言われる・授業中うるさい・変な噂を流される・勝手に自分の動画を人に見せていた・LINEのグループで勝手に写真を送られていた・LINEで悪口を言われた・身体的なことをからかわれた・変なあだ名で呼ばれる・先生が嫌だ・ズボンおろし・避けられる・デコピンされる

(考察)

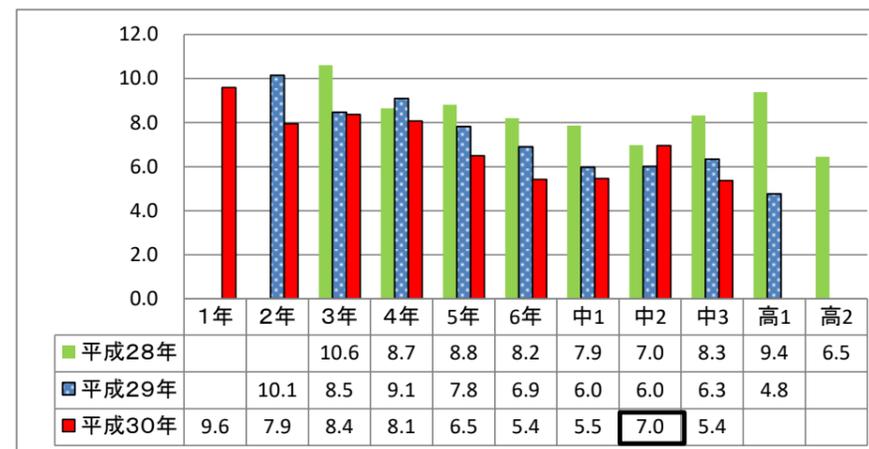
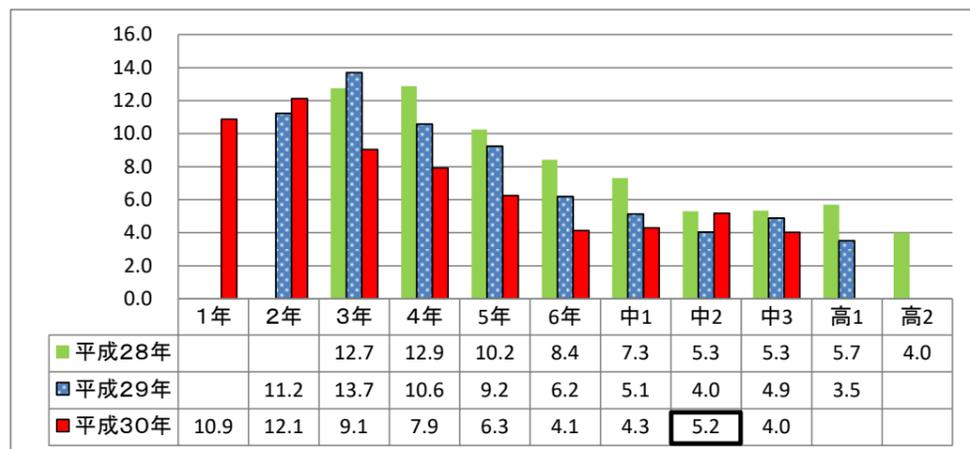
学校生活アンケートの結果について、平成28年度から平成30年度までの3年間の変容を並べて比較できるようにグラフ化しました。調査結果の全体的な傾向として、この3年間でほとんどの学年が減少傾向となっています。

減少傾向となっている理由の一点目として、小学校においては児童支援担当教諭が全校配置されたこと、教職員が児童生徒に寄り添いきめ細かな対応をしていることがあげられます。二点目として、学校が学校生活アンケートにより把握した実態を指導に生かしていること、また、各学校で策定している「いじめ防止基本方針」に則り取り組んでいることにより成果をあげていること、三点目として児童生徒が自覚を持って自らいじめ防止を行う自治活動として、「あいさつ運動」「意見箱の設置」などを積極的に取り入れているという点があげられます。また、毎年開催している「Stoپیじめ!中学生の集いinふじさわ」では、いじめ防止について各中学校生徒会の取り組みを報告しあうことにより、各学校での取組の充実が図られています。

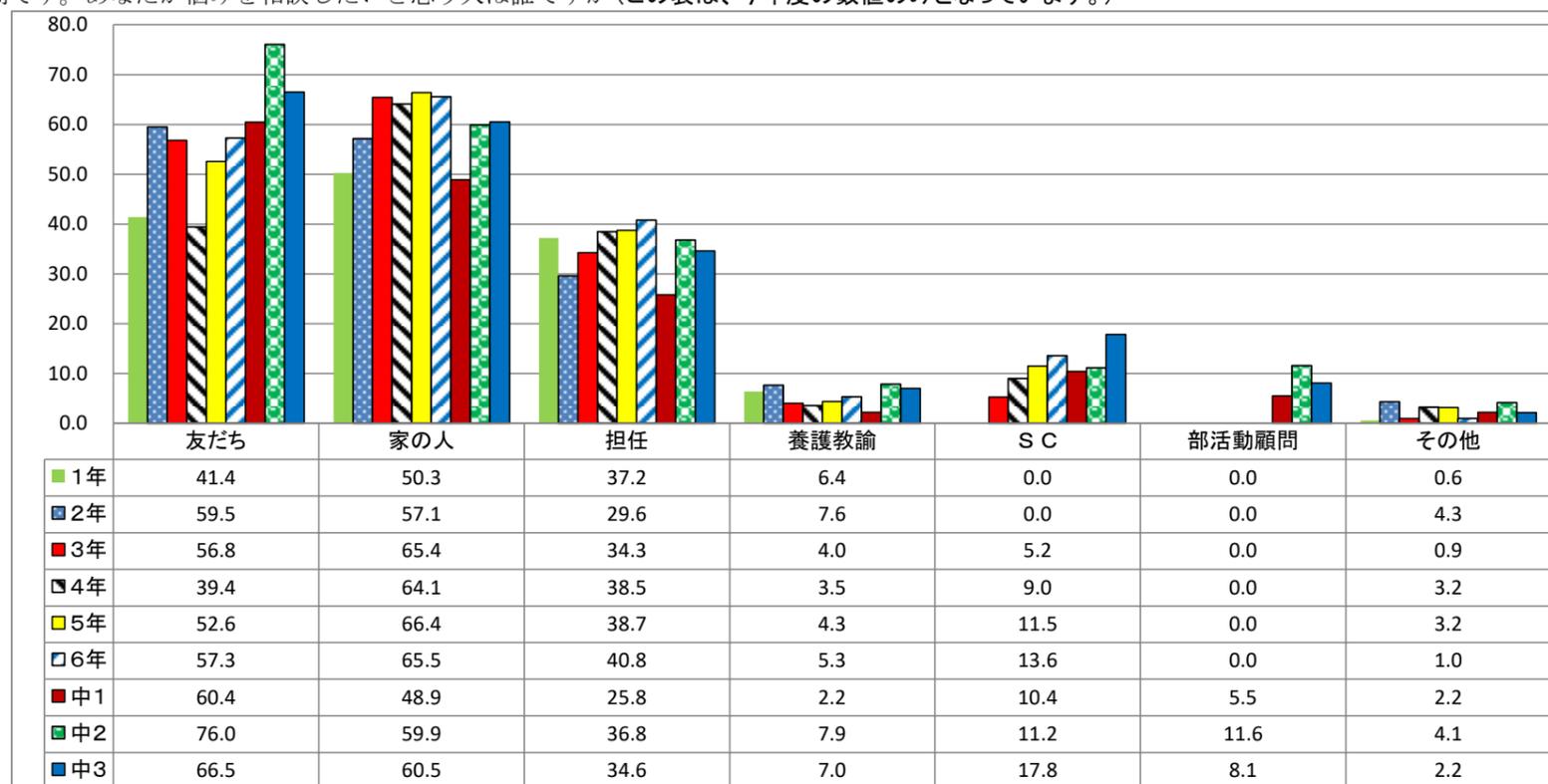
課題としては、(6)の小学校6年生から中学校3年生において、パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりしたという項目が、一昨年度から増加傾向にあることがあげられます。携帯やスマートフォンの所持率が急激に増加する時期であり、低年齢化している影響と捉えられます。各学校においては、情報モラル教育に力を入れており、児童生徒のネットトラブルについての理解は進んでいるものの、携帯電話等を持ち始める前の段階から、保護者を対象とした情報モラル教育の一層の推進を図るなどの対策が必要です。

設問2 あなたは、1の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなることがありますか？

設問3 あなたは、友達のことや、心配なこと、相談したいことがありますか？



設問4 3の質問で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？いくつかでも○をつけてください。
3で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか（この表は、今年度の数値のみとなっています。）



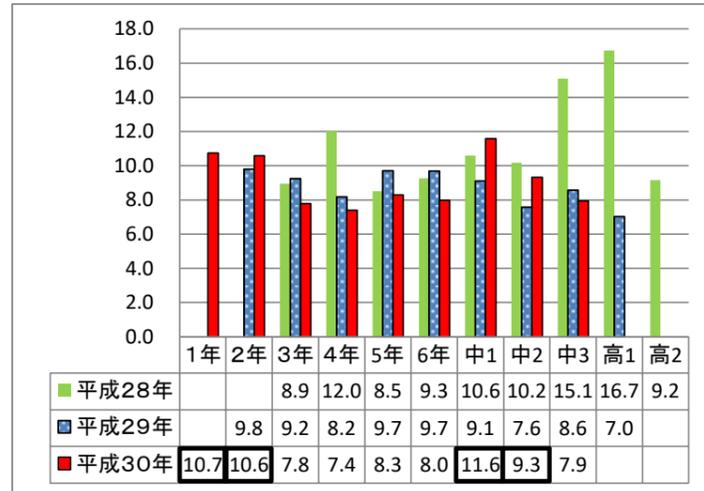
その他

- 【小学校】
 - ・祖母・警察・児童支援担当教諭・学童の指導員・校長先生・担任以外の先生・兄弟・友達のお母さん・病院のカウンセラー・いとこ・近所の人・友達のお母さん
- 【中学校】
 - ・精神科・介助員・部活の先輩・いじめ110番・高校の先輩・デイサービス

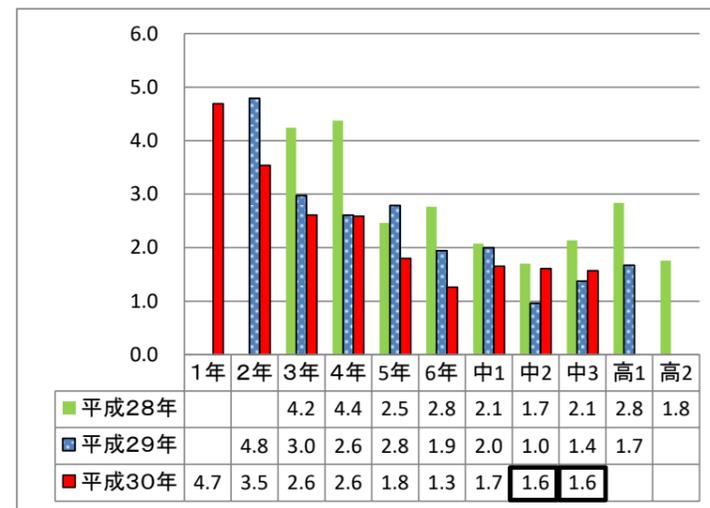
(考察)
 中学校2年生を除いて減少傾向にあります。設問4より、児童生徒が悩み事のかかえたときに相談したい相手の傾向は友達と家族はほぼ同水準となっており、次に学級担任という順になっています。小学校では、家族などの身近な人に相談する傾向が見られ、中学校になると家族よりも友だちに相談をする傾向が見られます。その他の記述として、警察や病院など関係諸機関と答える児童生徒もいることから、様々な相談先を今後も積極的に広報することが大切であると思われます。

設問5 あなたは今年の4月から今までの間に、周りの人に次のようなことをしたことがありますか。(学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒)

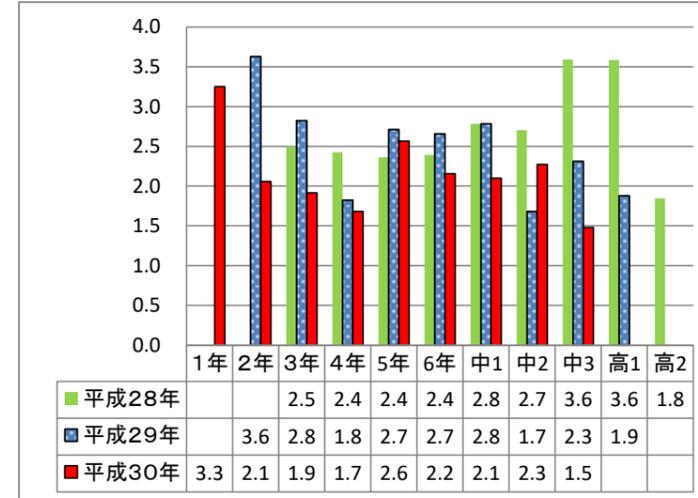
(1) ひやかしたり、からかったり、嫌がることを言った



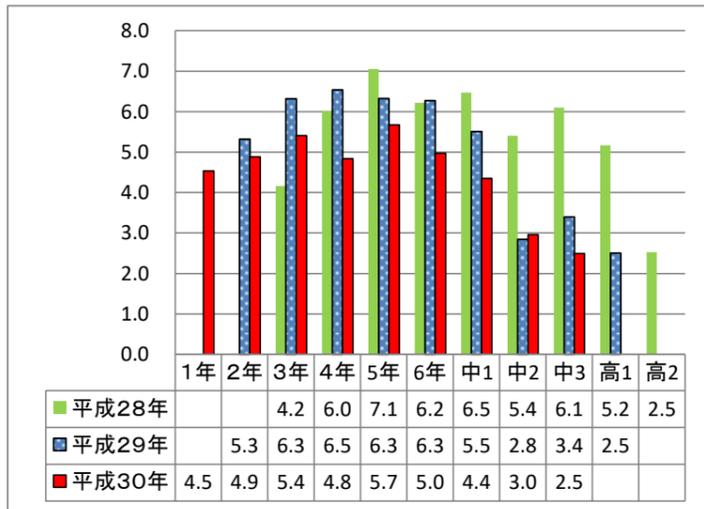
(2) 仲間はずれにしたり、無視したりした



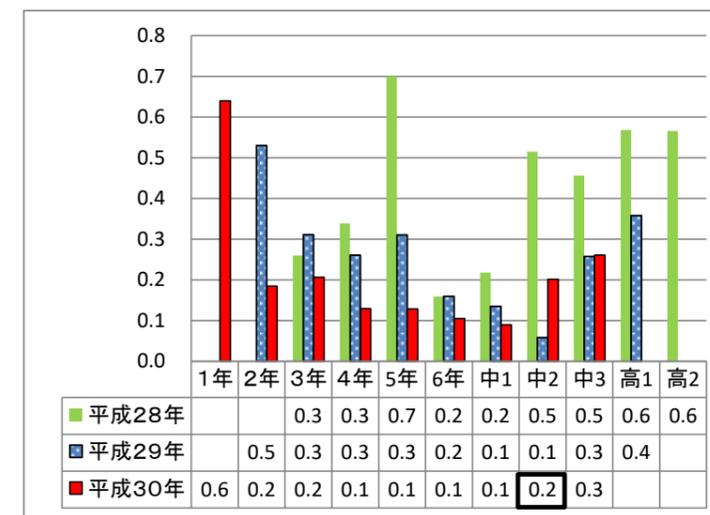
(3) 持ち物を取ったり、かくしたりした



(4) なぐったり、けったりした

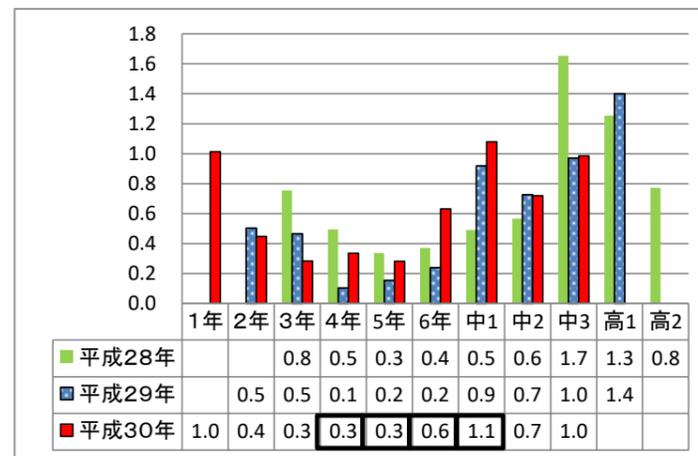


(5) お金を出させたり、おごらせたりした



(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年)

パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした



(7) その他

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・悪口を言った・うそをついた・きつく言ってしまった・机を倒す・やられたからやり返した・うるさくした・自由帳に嫌がることを書いた

【中学校】

・暴れてしまった・挑発した・中指を立てた・人のものを勝手に借りる

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・悪口をいう・仲間はずれにする・石を投げる・頭突きをした・蹴る・席替え時に隣を嫌がった・無視した・ミニトマトをとった・なぐった・バッグを投げた・作ったものをこわした

【中学校】

・きついことを言う・先生に反抗した・動画をネット上にあげた・嫌なことを言う人に合わせていた・ノートと筆箱を糊でくっつけた

(考察)

設問5では、自分がしたことを調査しています。

各項目の調査結果で学年によりばらつきがある中、中学2年生が全体的に増加しています。その他では、(1)において、小学校2年生、中学校1年生、(2)では中学校3年生が昨年度の数値から増加しています。

(5)のお金についての質問と、(6)パソコンや携帯電話・スマートフォンについての質問は、中学生に増加傾向が見られます。

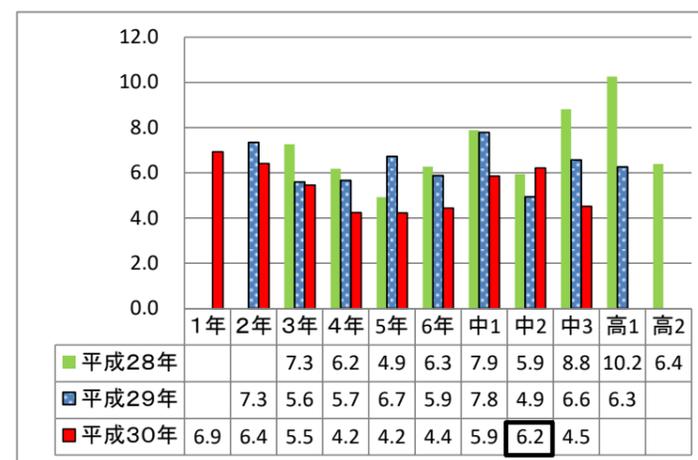
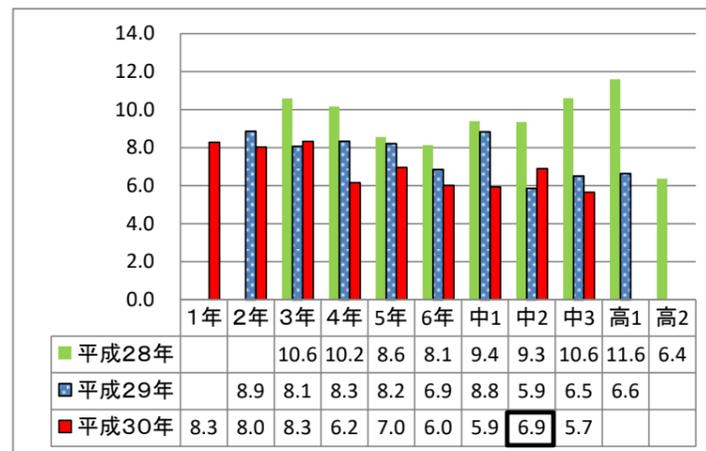
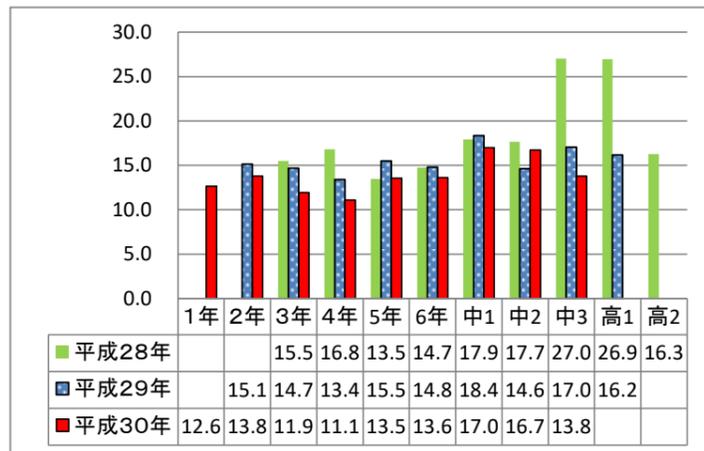
全体的な傾向として、自分がされたことを質問している設問1に比べ、数値が低くなっています。自分はいじめているつもりはなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があります。感じ方がそれぞれ違うことを認識させる必要があります。日頃から相手の気持ちを考えて、お互いに尊重しあって生活していくことを指導していくことが大切です。

設問6 あなたは今年の4月から今までの間に、同じ人がくり返し、次のようなことをされている場面を見たり、聞いたりしたことがありますか。(周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒)

(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われていた

(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりしていた

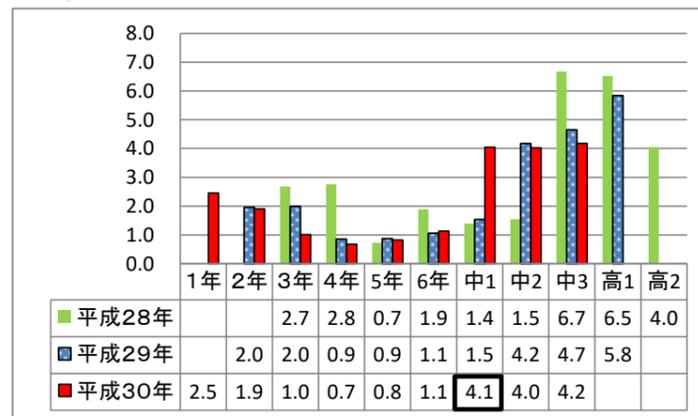
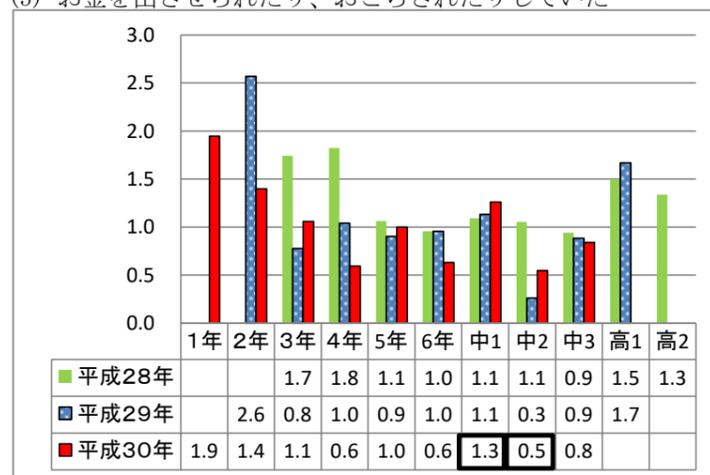
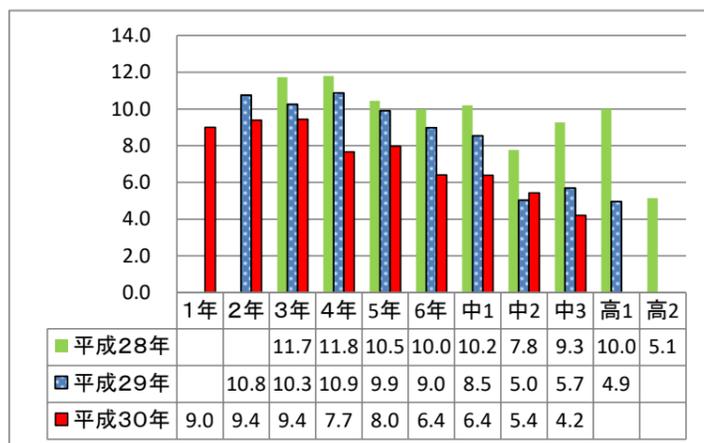
(3) 持ち物を取られたり、かくされたりしていた



(4) なぐられたり、けられたりしていた

(5) お金を出させられたり、おごらせられたりしていた

(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を書き込まれていた



(7) その他

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・陰で悪口を言っていた・押されていた・人のものを蹴ったり、乱暴にされていた・砂をかけられていた・いたづらをされていた・情報が回されていた・追いかけられていた

【中学校】

・本人のいないところで悪口を言っていた・変なあだ名で呼ばれていた・不登校の生徒に悪口

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・わざと転ばしていた・言いなりにされていた・手紙を捨てられていた・死ぬといわれていた・弱い者いじめをしていた・土下座させられていた・名前を変えて呼んでいた・叩いていた・折り紙をとられていた

【中学校】

・教科書に落書き・物を投げている・本人のいないところでのかげ口・人の水筒の中身を飲んで

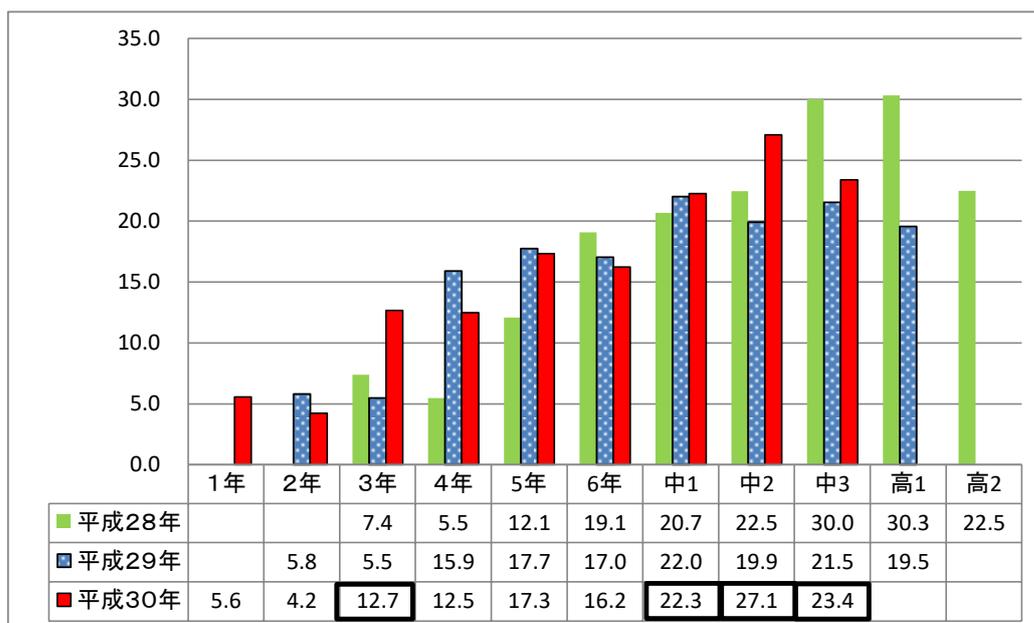
(考察)

全体的な傾向としては、3年間での減少傾向が見られる中、(6)のパソコンや携帯電話・スマートフォンに関わる質問においては小学校6年生から中学校1年生にかけて数値が増加しています。

設問1の「自分がされたこと」設問5の「自分がしたこと」に比べ、設問6の「されているのを見たり聞いたりしたこと」という設問は数値が高くなっています。各学校の取り組みなどにより、いじめについての児童生徒の感度が上がったこと、一つの事案に対して、複数の児童生徒からの回答の可能性があることなどが考えられます。

この設問においても、携帯電話等の質問に関して、中学生において増加傾向がみられ、今後の課題として各学校で取り組む必要があります。ネット上の閉ざされた世界での出来事は、学校や保護者が感知しづらいため、こういった情報を見たり聞いたりした児童生徒がすみやかに教師等に伝えられる環境をつくり対応していくことが大切になってきます。児童生徒への心の教育、情報モラル教育を一層推進する必要があります。

設問7 あなたのまわりには、6の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなっている人がいると思いますか？



設問8 6の(1)~(7)のような場面を見たり、聞いたりしたら、どうしますか？

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・注意する・先生に言う・止める・家の人に言う・助ける・話し合う・謝るように言う・相談相手になる・SCに相談する・やっている子の親に言う・声をかけてあげる・励ます・一緒に遊ぶ・やっている理由を聞く・助けたいけど怖くてできない・何もしない

【中学校】

・先生に言う・保護者に言う・SCに相談する・注意する・助ける・相談に乗る・なぜそうするのか聞く・何もできない・大丈夫と声をかける・友達に相談して先生に言う・話し合いなどをするように説得・証拠を残す

(主な意見：平成29年度)

【小学校】

・注意する・とめる・先生に相談する・助ける・大人に言う・はげます・話を聞く・見て見ぬふりをする・話し合う・友達に相談する・味方になる・SCに言う・解決してあげる・やった人をおこる・保護者につたえる・やられた人の気持ちを伝える・仲直りさせる・けんかする・けいさつに言う

【中学校】

・先生に言う・相談にのる・注意する・止める・大人に言う・声をかける・何もしない・無視する・家の人に相談する・SCに相談する・みんなと同じように無視する・双方の話を聞く・いじめた子と仲良くする

4 アンケート結果から見える取組の成果と課題

(1) 取組の成果

「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒」「学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒」については、経年の推移や学年が上がるにつれ減少傾向が見られています。また、「周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒」については、児童生徒の感度が高くなっていることが見てとれます。この結果は次のような取組の成果だと考えられます。

ア 教職員が日頃からきめ細かく児童生徒を観ていることや学校生活アンケート等の実施により、いじめの早期発見・早期対応につながっています。

イ 児童生徒のいじめに対する自覚が高まり、「あいさつ運動」「意見箱の設置」「アンケート調査」の実施など、各学校において児童生徒によるいじめ防止に向けた自治活動が積極的に推進されています。

ウ 「藤沢市子どもをいじめから守る条例」の施行や各学校の「いじめ防止対策基本方針」に基づいた取り組み、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会の開催により、教職員のいじめに対する意識や対応力が高まっています。

(2) 課題

ア 小学校高学年から中学生にかけてのパソコンや携帯電話・スマートフォンによるトラブルが増加しています。情報機器関連のトラブルは問題性が見えにくく、水面下での進行が懸念されることから、早期発見に向けての対策や、保護者を対象にした情報モラル教育の推進を図る必要があります。

イ 中学校2年生について、嫌な思いをしていると答えた生徒や、周りの人に嫌な行為をしたことがあると答えた生徒が増加しています。対象学年に対する適切な対策を図る必要があります。

5 今後の取組

情報機器を介して起こるトラブルについては、引き続き学校において、児童生徒・保護者に対する情報モラル教育を推進するとともに、学校に対して対処法等について最新の情報を提供し、トラブルが発生した際には学校と連携して早期対応を図ります。

中学校2年生の課題については、中学校生活に慣れたこの学年の特性を理解し、一層丁寧な指導と支援が必要になります。まずは、生徒指導担当教諭を中心に学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になります。その際、スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。また、子どもたちがトラブルにあたり、トラブルを見たり聞いたりしたときに、すみやかに相談できる環境をつくるよう努めます。

教育委員会は、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させていくとともに、子どもたち一人ひとりを大切にする「藤沢の支援教育」の考え方をひき続き周知していきます。小学校においては、児童支援担当教諭が今年度全校配置となったことを契機に、児童支援担当教諭と生徒指導担当教諭を窓口とした、小中学校の連携に更に力を入れ、9年間の連続した児童生徒支援・指導を目指します。